

鮎井雑記目録解題

「鮎井雑記」の「鮎井」は「府内（江戸府）」のことではなかろうかというのが、渡辺慶一説であった。

江戸詰めの高田藩士が、榊原家の江戸藩邸での諸行事や藩士の役職任免、江戸や道中での見聞、国元や諸国の情報等を書きとめた「雑記」である。

なお、享和2年（1802）から天保7年（1836）まで書き続けられているが、後半は、江戸から国元へ帰国後高田で見聞・収集した内容となっている。全部で16冊あったものと思われるが、残念なことに第3巻が欠けている。

著者は、「鮎井雑記四」の次の記事により、知行が150石の竹尾民右衛門であることが分かる。

- 一、此度我等知行之内、拾五石被召上候ニ付、無所務なれども溜りを被下置候、御作法之由ゆひ御勘定奉行方参り合候所、受取候様ニ申ニ付、則受取候所証文如左、尤本証文也

受取申米代銭之事

- 一、米三斗九合也 但相場三拾八俵六分弍厘、兩替七拾三匁壹分銭八拾六文
代銭 壹貫三百七文 目貫

右は六月廿三日知行百五拾石之内拾五石被召上候ニ付、御作法之通り十分一米割合、為代銭受取申候所也、仍而如件

文政三年辰八月廿三日

竹尾民右衛門印

久米清左衛門殿

服部角左衛門殿

秋山仁平治殿

この「鮎井雑記」は、江戸時代に直江津今町の大肝煎を勤めた福永家の蔵書となっていた。経緯は不詳であるが、第二次世界大戦後の混乱期に東京神田の古書店から売りに出された。福永家にあった地元の貴重な史料であるということで直江津市が購入し、上越市が引き継いだものである。

なお、添付された「福永七兵衛・川嶋孫七御役御免一件」（241-16-1）は、弘化4年に発生した善光寺地震の際の救米をめぐる町役人任免の記録である。これも福永家文書の中から流失した一書であるが、「鮎井雑記」と一緒に店頭に並んだので直江津市によって買いもとされた。本来全く別の史料だが、購入時の事情から便宜上並べて整理されてきた。

